

令和6年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】



上尾市立平方北小学校

目 次

上尾市立平方北小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和5年12月実施） 【2～6年：国語、算数】	2
(2) 全国学力・学習状況調査（令和6年4月実施） 【6年：国語、算数】	7
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和6年5月実施） 【4～6年：国語、算数】	8
2 学力向上を図る取組	
(1) 各教科の授業における取組	10
(2) 教育活動全体を通じた取組 本校の特色ある取組 家庭教育との連携	13

上尾市立平方北小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

「確かな学力・豊かな心・健やかな身体の育成」

めざす学校像

唯一無二の存在

児童 First 職員 First 保護者 First 地域 First

学校課題研究主題

「目を輝かせて主体的に学ぶ児童の育成」

～非認知能力を高める指導を通して～

学力・学習状況調査の結果

R6 全国学力・学習状況調査

- ・国語、算数ともに平均正答率は全国平均を下回っている。
- ・国語では、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする問題の正答率が低い。
- ・算数では、立体の体積を求める公式を応用して、理由や根拠を明らかにして説明する問題の正答率が特に低い。

R6 埼玉県学力・学習状況調査

- ・学力レベルの平均について、5年は国語が4レベル、算数が1レベル伸びているが、6年は国語が2レベル下がり、算数は伸びが0である。
- ・5年は国語、算数ともに、学力を伸ばした児童の割合が埼玉県平均を上回っている。
- ・学習方略の中で、プランニング方略と努力調整方略の項目の数値が埼玉県と比較して低くなっている。

R5 上尾市立小・中学校学力調査

- ・国語・算数の平均正答率が、多くの学年において全国平均を下回った。
- ・国語では、文章の構成を考えて、伝えたいことを明確にして書くことに課題がある。
- ・算数では、基礎的な計算力は身につけてきているが、文章問題に合った立式をして答えを求めることに課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得

- 基礎的・基本的学習内容を身に付ける力
- 教科の特性に合わせた技能を習得する力

思考力・判断力・表現力等の育成

- 多角的な見方から思考する力
- 論理的に書いたり話したりする力

学びに向かう力・人間性等の涵養

- 進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力
- 目標を立て、実現に向けて努力する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得

- ・朝の読書活動で読解力をつける。
- ・「ことばのじかん」で、語彙を増やし、書くことに慣れる。
- ・「かずのじかん」で練習問題に取り組み、計算力を高める。
- ・ICTを活用し、児童一人一人の習熟度に応じた個別最適化した学習を行う。

思考力・判断力・表現力等の育成

- ・児童が主体的に課題を解決する授業展開を工夫する。
- ・場に応じた表現を行うための話型を示し、基礎的な表現力を育成する。
- ・各教科等で書く活動を多く取り入れ、意図が相手に伝わるように記述する力を育成する。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- ・児童の経験や興味・関心を活かした課題設定を行う。
- ・児童一人一人の実態に合わせた目標設定と支援により、全員に達成感を味わわせる。
- ・ICT機器を活用し、児童の学習意欲を高める授業を行う。

本校の特色ある取組

- あいさつ運動の推進
- 豊かな体験活動の推進
- 「ことばのじかん」「かずのじかん」の活用（火・木朝）
- 「こころのじかん」での非認知能力の育成（金・朝）
- 道徳教育の充実
- 特別支援教育の充実
- 小中一貫教育の推進
- 学校ICTの活用推進
- 読書活動の充実
- 英語活動・外国語活動・外国語科の充実

家庭教育との連携

- 授業と家庭学習との連続性
- 家庭学習を通じた保護者との連携
- 学校応援団の充実による家庭・地域との連携

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和5年12月実施)

2年(令和6年度3年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	●ほとんどの項目で目標値を下回った。特に、「領域」の「話すこと・聞くこと」では、目標値より9ポイント下回っている。 ○書くことについては、目標値と同程度だった。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 伝えたいことを相手に分かってもらえるように、事柄の順序に沿ったメモを書き、それをもとに話す活動が不足していると考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・自分の思いや考えが相手に伝わるように、事柄の順序を考えて話す力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	作り方を説明する	相手に伝わるように、事柄の順序を考えて話している。	伝えたいことを相手に分かってもらえるように、事柄の順序に沿ったメモを書いて話す活動を多く行う。
②	話を聞き取る	話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。	相手が伝えたいことを落とさずに聞き取ることができるように、スピーチの活動を多く行う。

2年(令和6年度3年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	●ほとんどの項目で目標値を下回った。特に、「基礎・活用」の「活用」では、10ポイント、「領域」の「数と計算」では、10.4ポイント目標値より下回っている。 ○測定については、目標値を3.9ポイント上回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 位をもとにした数の構成の理解が不足していると考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
算数科の重点目標	・位をもとにした数の構成を理解し、たし算を正しく行う技能の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	たし算	10をもとにして、(何十) + (何十)の計算をしている。	(何十) + (何十)のたし算の練習問題を繰り返し行わせ、位をもとにした数の構成を確実に理解させる。
②	たし算	2けた + 2けた = 3けた (繰り上がり2回)の計算ができる。	2けた同士のたし算の練習問題を繰り返し行わせ、繰り上がりの処理が確実にできるようにする。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

3年(令和6年度4年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	●全ての項目で目標値を大きく下回った。特に、「基礎・活用」の「活用」では、27.1ポイント、「領域」の「書くこと」では、28.7ポイント目標値より下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 様々な条件のついた文章を書く活動が不足していると考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
国語科の重点目標	・内容のまとまりで段落を作るなど、文章の構成を考えて書く力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	意味のつながりがまとまったものを段落として捉えられるようにし、段落の数など、条件のある内容で文章を書く活動を多く取り入れる。
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	決められた長さで文章を書く活動を多く取り入れる。

3年(令和6年度4年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	●全ての項目で目標値を大きく下回った。特に、「領域」の「数と計算」では、21.4ポイント、「図形」では、24.4ポイント、「観点」の「思考・判断・表現」では、28.6ポイント目標値を下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 図形の構成要素についての理解及びコンパスの特徴についての理解が不足していると考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
算数科の重点目標	・円の性質やコンパスの使い方についての理解を深める。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	円と球	円の中心とコンパスの使い方を理解している。	円の性質やコンパスの特徴について理解させ、円の作図を繰り返し行わせる。
②	円と球	コンパスで同じ長さを測りとることができることを理解し、ながさの見当をつけることができる。	コンパスで同じ長さを測りとる練習を繰り返し行わせ、技能を向上させるとともに、量感を養わせる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

4年(令和6年度5年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○多くの項目において、目標値と同程度だった。 ●「領域」の「書くこと」については、目標値を7.7ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析 様々な条件のついた文章を書いたり、自分の考えを明確にして書いたりする活動が不足していると考えられる。
	思考・判断・表現	≒	
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・書く内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている。	伝えたいことや知らせたいことをはっきりさせ、つながりや配列を意識して文章を書く活動を多く行う。
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	決められた長さで文章を書く活動を多く取り入れる。

4年(令和6年度5年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○小数のたし算とひき算の問題の正答率は、目標値を上回っており、計算力が定着している。 ●多くの項目で目標値を下回った。特に、「領域」の「変化と関係」では、10.3ポイント、「データの活用」では、11.4ポイント、「観点」の「思考・判断・表現」では、10.3ポイント目標値を下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	▼	
観点	知識・技能	≒	要因分析 割合の意味についての理解が不足していると考えられる。 グラフを正しく読み取る力が不足していると考えられる。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
算数科の重点目標	・割合の意味を理解し、文章問題から基準量等を求めるために正しく立式する力の育成。 ・目的に応じて、グラフを正しく読み取る力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	簡単な場合についての割合	基準量を求める除法の文章問題に合った立式ができる。	基準とする数量を1とみると他方の数量がどれだけに当たるのかが割合であることを理解させ、基準量・比較量・割合を求める文章問題を多く行う。
②	折れ線グラフ	折れ線グラフを正しく読み取っている。	縦軸と横軸の値や最大値、変化に着目させ、目的に応じて、グラフを読み取る練習問題を多く行う。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

5年(令和6年度6年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○ほとんどの項目で目標値を上回っている。特に、「領域」の「書くこと」では、6.8ポイント目標値を上回っている。 ●「読むこと」の、「説明文の内容を読み取る」問題に関しては、正答率が目標値を10.6ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	△	文章と図表、写真、挿絵などを結び付けて説明文の内容を読み取る活動が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
国語科の重点目標	・情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理して読む力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	説明文の内容を読み取る	情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。	文章と図表、写真、挿絵などを結び付けて説明文の内容を読み取る活動を多く行わせる。
②	説明文の内容を読み取る	叙述を基に文章の内容を捉えている。	文章中の一つ一つの叙述に気を付けながら、内容を正確に読み取る活動を多く行わせる。

5年(令和6年度6年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○合同な三角形を作図する問題の正答率は、目標値を上回っており、基礎的な知識及び技能が定着している。 ●ほとんどの項目で目標値を下回った。特に、「基礎・活用」の「活用」では、14.1ポイント、「領域」の「図形」では、11.4ポイント、「観点」の「思考・判断・表現」では、12.4ポイント目標値を下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	▼	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	▼	立体の体積を求めるために必要な構成要素を捉える力が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
算数科の重点目標	・立方体や直方体を組み合わせた形の体積を正確に求める力の育成		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	体積	直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる。	立体の体積を求めるために必要な構成要素に着目し、正確に体積を求める活動を繰り返し行わせる。
②	体積	立方体の体積を求める式を理解している。	具体物やICT端末を活用し、1辺×1辺×1辺で基になる立方体(1cm ³ ・1m ³)いくつ分になるかを視覚的に捉えるとともに図形の構成要素と関連付けながら、立式、計算を行わせる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

6年(令和6年度中学1年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○読むことに関しては、目標値を3.2ポイント上回っている。 ●多くの項目で目標値を下回った。特に、「基礎・活用」の「活用」では、7.4ポイント、「領域」の「情報の扱い方に関する事項」では、8.2ポイント目標値より下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析
	思考・判断・表現	≒	日々の学習の中で、様々な条件のついた文章を書く経験が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	▼	
国語科の重点目標	・目的や意図に応じて、書き表し方を工夫して文章を書く力の育成		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	ポスターを作る	情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。	原因と結果など、情報と情報の関係を意識した文章を定期的に書く経験を多く積ませる。
②	言葉の学習	文と文との接続の関係を理解している。	短文作りの時間に意図的に使用させながら、様々な接続語の正しい使い方を覚えさせる。

6年(令和6年度中学1年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○図形に関しては、目標値を4.8ポイント上回っている。 ●多くの項目で目標値を下回った。特に、「領域」の「変化と関係」では、20.4ポイント、「数と計算」では、7.1ポイント目標値より下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	▼	比や比の値の意味や使い方の理解が不足していると考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
算数科の重点目標	・比の意味を理解し、一方の量や全体の量を正しく求めること。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	比と比の値	比を使って、一方の量から、全体の量を求めている。	比の意味を確かめた上で、様々な文章問題に取り組ませる。
②	分数のかけ算・わり算	分数のわり算を、被除数と除数に同じ数をかけて、整数のわり算にして計算する方法を説明している。	最小公倍数の意味と求め方など、既習事項を授業でしっかり確認し、分数のわり算が正しく計算できるように練習させる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

(2) 全国学力・学習状況調査(令和6年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

・事実と感想、意見とを区別して文章を書くことができていない。一方、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にして書くことに課題がある。

課題の要因分析

・書く目的や意図を正確に理解することが難しく、書く活動に慣れていないために、適切な構成を考えて書くことができていない。集めた材料のどこを詳しく書けば効果的か、どの材料を用いれば自分の考えが伝わるかを工夫できるようになることが求められる。

算数

考察(問題と結果の分析)

・公式に数値を当てはめて解答することはできているが、それを応用した問題において、理由や根拠を明確にして説明することに課題が見られる。

課題の要因分析

・公式を覚えることはできているが、どうしてそのような式で求められるのかについて、意味の理解を深めることができていない。

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性	
4年	校内	4-B		R6数値	3.8	3.5	3.8	4.0	3.4	3.6	3.8	
	県	5-B		伸び +or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは、県と比較して3段階低い。学習方略については、県と比較してプランニング方略と努力調整方略が特に低いが、作業方略は上回っている。 ・文法に関わる問題や登場人物の心情に関連した問題の正答率が、県平均より約20ポイント低い。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中で、作業方略が高くなっているところから、一文の構成を意識してノートに書く作業を繰り返していくことで、正しい文法を身に付けられるようにする。また、物語文等では、場面ごとに読み取った登場人物の気持ちをノートに記録する作業を通して、心情の移り変わりを的確に捉えられるようにする。 											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
5年	校内	6-A	4	5-B	R6数値	3.7	3.9	3.4	4.3	4.1	3.8	3.8
	県	6-B	1	6-C	伸び +or-	0.2	0.2	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5の学力レベルは県を2段階下回っていたが、昨年度から4段階上昇し、県を上回るようになった。学習方略については、認知的方略と努力調整方略が県と比較して高くなっている。 ・文章の内容を理解したり、指示語の示す内容を文中から抜き出したりすることに関連した問題の正答率が県平均よりも約10ポイント低い。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中で、特に認知的方略と努力調整方略が高くなっているところから、困難な問題に対しても、教師の支援を受けながら解決・習得できる児童が多いと考えられる。長文を読んで、問いに答える問題や指示語の示す内容を書き抜く問題に繰り返し取り組ませることで読み取る力をつけさせ、自己効力感を高める指導を行う。 											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力	
6年	校内	6-A	-2	7-B	R6数値	3.2	3.2	2.8	3.7	3.3	3.3	2.8
	県	7-C	0	7-C	伸び +or-	0.3	0.0	0.0	0.0	-0.4	0.2	-0.1
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは、R5から2段階下がり、県を下回るようになった。学習方略と非認知能力については、全ての項目において県より低くなっているが、特に努力調整方略とやりぬく力は、昨年度よりも減少している。 ・主語や被修飾語を問う、文の構成の理解に関する問題の正答率が県平均よりも20ポイント低い。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略と非認知能力の全項目において県平均より低い傾向にあるが、柔軟的方略と自己効力感については、昨年度よりも上昇している。学習の仕方をいろいろ考えながら問題に取り組むことが、達成感や自己効力感の向上につながっていると考えられる。課題解決の方法を自ら選択させて取り組ませる等、主体的な学びをさらに進める。 											

(3) 埼玉県学力・学習状況調査(令和6年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

算数

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性	
4年	校内	3-A		R6数値	3.8	3.5	3.8	4.0	3.4	3.6	3.8	
	県	4-A		伸び +or-								
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは、県と比較して3段階低い。学習方略については、県と比較してプランニング方略と努力調整方略が目立って低くなっているが、作業方略については上回っている。 ・円や球の性質に関連した問題の正答率が、約20ポイント低くなっている。 ・文章問題を正しく読み取ることができず、既習事項と結び付けて考えることができていない。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中で、作業方略が高くなっているところから、図形の定義や特徴を繰り返し声に出して確認する取組を継続していくことで、確実に身につくようにしていく。また、問題文を最後まで読み、分かっていること、求めること等に印を入れて解答作業に入ることを徹底することで、既習を生かした立式に繋がられるようにする。 											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心	
5年	校内	5-A	3	4-A	R6数値	3.7	3.9	3.4	4.3	4.1	3.8	3.8
	県	5-B	1	5-C	伸び +or-	0.2	0.2	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5の学力レベルは県を1段階下回っていたが、昨年度から3段階上昇し、県を上回るようになった。学習方略については、認知的方略と努力調整方略が県と比較して高くなっている。 ・四則の混合した式や()を用いた計算に関する問題の正答率が、県平均より20ポイント以上低い。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略の中で、特に認知的方略と努力調整方略が高くなっているところから、苦手な問題に対しても、あきらめずに継続して学習し、解決・習得できる児童が多いと考えられる。友達との学び合いを通して、新たな考え方や視点を得るような学び方が身についているので、対話的学習を充実させ、理解を深める指導を行う。 											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
	R6レベル	昨年度からの伸び(+or-)	R5レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力	
6年	校内	5-B	-1	5-A	R6数値	3.2	3.2	2.8	3.7	3.3	3.3	2.8
	県	6-B	1	6-C	伸び +or-	0.3	0.0	0.0	0.0	-0.4	0.2	-0.1
	<p>1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルは、R5から1段階下がり、県と比較して3段階低い。学習方略と非認知能力については、全ての項目において県より低くなっているが、特に努力調整方略とやりぬく力は、昨年度よりも減少している。 ・図形における公式の意味を説明することに関する問題の正答率が県平均より15ポイント以上低い。 <p>2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習方略と非認知能力の全項目において県平均より低い傾向にあるが、柔軟的方略と自己効力感については、昨年度よりも上昇している。このことから、学習方法を工夫して、前向きに取り組むことで学習内容を確実に習得できる児童が多いと考えられる。図形における公式は覚えているので、なぜそのような式で求められるのか、柔軟にいろいろな方法で考えたり、友達との対話を通して理解を深めたりできるように学習方法を工夫させることで、応用した問題にも対応できるようにしていく。 											

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的学習内容を身に付ける力 ②教科の特性に合わせた技能を習得する力	③多角的な見方から思考する力 ④論理的に書いたり話したりする力	⑤進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力 ⑥目標を立て、実現に向けて努力する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②	①授業や家庭学習で音読を継続し、読む力の向上を図る。 ②朝学習や授業で条件に合った短文作りをし、文を構成して書く力を身につけさせる。	
算数	①、②	①オンラインドリルやプリント等を活用し、復習を繰り返し行わせる。 ②具体物や半具体物の操作など、数学的活動を十分に行わせる。	
生活	③、④	③具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を養う。 ④活動や体験したことを豊かな言葉で表現できるよう、語彙を増やす。	
音楽	②	②学習の初期に漠然と抱いた「この曲は楽しい」などの曲の印象を起点として、リズムや構成などの違いに着目して聴き深めさせる。	
図画工作	⑥	⑥並べたり、つないだり、積んだりするなどの行為や活動を通して、つくりだす喜びを十分に味わわせる。	
体育	③、⑤	③友達のよい動きを擬態・擬音語で表現させて相手に伝える。 ⑤きまりを守って意欲的に楽しく運動させる。	
英語活動	②	②ALTやHRTとジェスチャーを入れながら、あいさつをしたり、歌を歌ったり、ゲームをしたりさせる。	
特別の教科 道徳	③	③役割演技を取り入れながら、自分に置き換えて考えたり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えをもたせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的学習内容を身に付ける力 ②教科の特性に合わせた技能を習得する力	③多角的な見方から思考する力 ④論理的に書いたり話したりする力	⑤進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力 ⑥目標を立て、実現に向けて努力する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④	①授業の中で、互いの考えを伝えるなどして話し合いを行い、話す・聞く力を身に付けさせる。 ④内容の中心を明確にし、段落を意識して文章を書く力を付けさせる。	
社会	②、⑥	②資料から必要な情報を読み取ったり、考えたりしたことを伝え合ったりしながら、学習問題を解決させる。 ⑥施設の見学などの体験的な学びにより、人々の生活との関連を理解させる。	
算数	①、②	①ドリルやプリントを使って学習内容を反復し、既習事項の定着を図る。 ②ICT機器を活用し、数学的活動を楽しませる。	
理科	②、④	②結果の予想を立てて観察・実験を行わせる。 ④実験や観察の結果から考察したことを自分の言葉でまとめさせる。	
音楽	②	②学習の初期に感じた「この曲は明るく生き生きとしている」などの気づきを起点として、音楽を特徴付ける要素について豊かな言葉で表現できるよう、聴き深めさせる。	
図画工作	⑥	⑥混ぜたり重ねたり、切ったり組み合わせたりするなどの行為や活動を通して、つくりだす喜びを十分に味わわせる。	
体育	④、⑤	④友達と互いに運動を見合い、動きのよさや課題を有効な言葉で伝え合わせる。 ⑤ルールを守り、場や用具の安全に留意し、運動の楽しさや喜びに触れさせる。	
外国語活動	③	③生活場面と関連させ、日本だったら・海外だったらという意識をもたせて英語活動を行わせる。	
特別の教科 道徳	③	②小グループでの話し合いや役割演技等の活動を通し、学習に主体的に関わらせ、多角的な考えに触れ、自分の考えをもたせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的学習内容を身に付ける力 ②教科の特性に合わせた技能を習得する力	③多角的な見方から思考する力 ④論理的に書いたり話したりする力	⑤進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力 ⑥目標を立て、実現に向けて努力する力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②	①朝学習の時間等で、指定された言葉を使って短文作りをし、語彙力、書く力を高めさせる。 ②登場人物の相互関係や心情などについて、描写に着目しながら読み進め、読む力を高めさせる。	
社会	②、③	②自分の生活と結びつけながら学習を進め、課題を解決させる。 ③資料から必要な情報を読み取り、関連事項について自分の言葉で表現させる。	
算数	①、②	①継続的な計算練習により、計算技能を確実に身につけさせる。 ②ICT機器を活用し、数学的活動を楽しませる。	
理科	③、④	③経験や既習学習内容を基にし、課題や予想について友達と話し合うなど、対話的な活動をさせる。 ④実験や観察の結果から考察したことを自分の言葉でまとめさせる。	
音楽	②	②学習の初期に捉えた「この曲はリズムに特徴がある」などの気付きを起点として、音楽を特徴付ける要素について豊かな言葉で表現できるよう、聴き深めさせる。	
図画工作	⑥	⑥見方や感じ方、形や色などの造形的な特徴に着目させ、つくりだす喜びを十分に味わわせる。	
家庭	⑤	⑤生活の中から課題を見だし、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善を一連の学習活動として行わせる。	
体育	⑥	⑥各種運動領域において、仲間と対話し協力しながら効果的にICT機器を活用し、自分やグループの課題を見付けたり、解決させたりする。	
外国語科	②	②外国語だけでコミュニケーションをとる場面を作って会話をさせる。	
特別の教科 道徳	③	③話し合い活動を通して、友達の意見を聞き入れながら、自分の生活を振り返って考えさせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○あいさつ運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつレベルを指標として、気持ちのよいあいさつを励行する。 ・児童会、保護者、地域の方々による登校時のあいさつ運動を定期的に行う。
○学校ICTの活用推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科・領域等においてデジタル教科書、ICT端末、書画カメラなどのICT機器を活用し、児童の意欲を喚起するとともに、視覚的に訴える学習を行う。
○豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自然に親しむ活動として、野鳥の森や学校ビオトープの活用を年間指導計画に取り入れる。 ・総合的な学習の時間に、SDGsの視点を取り入れた課題を設定する。
○読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・登校後に「読書活動」を取り入れ、本に親しむ姿勢と読書の習慣を身に付けさせる。(月・金曜日) ・学校図書館支援員による年間を通した学校図書館運営により、児童の読書への意欲を高める。 ・年2回(6月「読書まつり」・11月「読書月間」)、目標をもって読書に取り組む機会を設ける。
○「ことばのじかん」「かずのじかん」「こころのじかん」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日・木曜日・金曜日の登校後の時間(8:25~8:35)をそれぞれ「かずのじかん」、「ことばのじかん」、「こころのじかん」として活用し、算数や国語の基礎学力の向上、非認知能力を育成する。 ・短時間集中学習の習慣を身に付けさせ、学習意欲を高める。
○道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業充実のため、工夫した発問・教材・教具の準備を進め、児童の心にひびく授業を行う。 ・年間を通して、授業研究・協議を行う。
○英語活動・外国語活動・外国語科の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の英語活動・外国語活動・外国語において、担任とALTとのチーム・ティーチングにより授業を進める。 ・HRTが積極的に英語で話す。 ・校内放送・掲示等で英語にふれる環境をつくる。
○特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の児童との交流及び共同学習の推進を行う。 ・通常学級における特別支援教育の推進により、児童が自分の課題を知り、自分を活かせる教育を行う。
○小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から本校への小中連携対応教諭の派遣による授業を通して、中学校への進学を円滑に行う。 ・大石南中学校区3校の教員相互の授業参観、合同研修会を行う。
家庭教育との連携	
○授業と家庭学習との連続性	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や算数を中心に、授業での学習内容に関連した宿題を課し、基礎学力の定着を図る。「学年×10分」の時間を目安とする。
○家庭学習を通じた保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自主的に行う家庭学習を推進し、家庭への協力を呼びかけ、保護者による支援や、家庭での体験的な学びにつなげる。
○学校応援団の充実による家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域に広く呼びかけ、学校応援団の登録を充実させるとともに、教育活動において積極的に活用していくことにより、家庭や地域の学校教育への参画意識を高め、人材を生かした教育を行う。